様式２

令和元年度　小林市立永久津小学校　学校関係者評価書

４段階評価	４　期待以上　　３　ほぼ期待どおり　　２　やや期待を下回る　　１　改善を要する

学校経営ビジョン	笑顔で登校　笑顔で下校　思いやりあふれる永久津っ子の育成 ～　学校・家庭・地域が一体となって１４６年の絆のかけはしをつなぐ　～

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	**【目標】学力向上** **（子どもの将来を見据えて今の学びを考える）** **◎　児童主体の「楽しく」「分かる」「できる」授業をめざし、これからの社会の変容を意識し、児童の将来を見据え責任をもった学習指導を展開することによって、学力のさらなる向上を図る。** **【手段・具体的な取組】** **１　主体的・対話的で深い学びの創造と確実な振り返り** **２　職員相互の認め合いと学び合い** **３　立腰指導の徹底と基本的学習習慣の定着** **４　家庭学習習慣の定着と放課後子ども教室との連携強化**	１について 「めあて」に始まり、「まとめ」で終わる授業の流れを意識して実践できた。今後は「個々の教師の授業対するチェックポイント」も意識して、指導していきたい。 業間にＷｅｂ単元テストを実施することが、この活用率につながっていると考えられる。今後は、復習などのさらなる活用を図ったり、個に応じたきめ細かな指導を行ったりする必要がある。 ２について 全員が公開授業を実施し、授業改善・授業力向上を図ってきた。（国語） ＣＲＴテストについては、1月実施のため、実施後に分析を行い、指導に役立てていきたい。 ３について 立腰については、指導を行ったが、目標値を達成することはできなかった。再度職員での共通理解を図り、授業での積極的な言葉かけを行い、児童の意識化を図っていきたい。 鉛筆の持ち方については目標に達することができなかったが、今後も継続し、80%以上を目指したい。	3	3	○　ＴＶゲームなど、環境は年々子どもたちの周りに氾濫している中で、家庭でのルールづくりが大切だと思う。 ○　鉛筆の正しい持ち方がなぜできないのですか。

徳育	【目標】豊かな心の教育推進 （生徒指導３機能生かした認める指導と体験活動の充実） ◎　道徳や特別活動、こすもす科との関連を踏まえた体験活動の推進による、豊かな感性と思いやりの心の育成。 【手段・具体的な取組】 １　自己を見つめ、多面的・多角的な見方を育む授業の推進 ２　基本的生活習慣の意義を考えさせる指導と定着の推進） ３　日本一の読書県宮崎の推進	１について KSSVC など、地域の方々の協力を得ることで、児童にとって豊かな心を育成する体験活動を行うことができた。（米作り、昔の遊び、凧作り、保育士体験等）今後も計画的に進めていきたい。 ２について ○　基本的な生活習慣の定着については、学校全体また、各学級での繰り返しの指導と、児童自身にしっかりと物事に対して向き合い判断させることを重視した指導を行ってきた結果、定着がうかがえる。 ○　規範意識をもっての指導は大切であることを踏まえ、「〇〇してはいけません」ではなく、「こんな時はどう考えてどのように行動していけばよいか」を考えさせながら行動させていく指導は今後も継続していきたい。 ○　大きな不登校やいじめの問題は現在のところないが、学校は常に児童の様子を細かく把握し、保護者や地域とも連携を図りながら児童理解に努め、積極的な生徒指導を推進していきたいと考える。 ３について ○　毎週月曜日の朝の時間に、地域ボランティアの方々による読み聞かせを本年度も実施している。児童も楽しみにしており、今後も継続していきたい。 ○　学校図書協力支援員が、図書の貸し出しや図書館設営を行っている。新刊図書を工夫して紹介するなど、児童の読書意欲を高める工夫を行ってきた。 ○　12 月現在、図書の総貸出冊数は 4814 冊で一人平均 66.9 冊である。目標は達成しているが、個人差もある。また、自己評価もあまり高くないので、さらに貸出冊数が伸びるよう、手立てを工夫しながら読書意欲を高めていきたい。	4	3	○　地域との関わりについては、様々な取組がなされていると思う。今後も可能な限り、関わりをもちたい。 ○　学校内ではよくあいさつをするが、登下校中はこちらからしないとあいさつをしない。

	４　徳育集会・バースディ給食による心のふれあい推進	４について ○　徳育集会では、命や人権、頑張る心などについて、作文を紹介したり行事に絡めて時期に応じた話をすることができた。今後も継続していきたい。 ○　毎月１回の実施を通して、心のふれあい行うことが出来た。			
体育	【目標】健やかな心体の育成 （生きる力の元となる健康・体力を意識して） ◎　体力向上プランを意識した授業・体育的行事・日常の体育的活動を通して、基礎体力の向上と健康的な生活習慣の定着を図る。 【手段・具体的な取組】 １　体力・運動能力の向上 ２　危険予知・回避能力の育成と地域・保護者との連携 ３　保健指導の充実 ４　家庭・地域との連携	１について ○　体力テストの結果、児童の体力が県の平均と比べて高いことが明らかになった。しかし、ＤＥ評価の児童の割合が前年度よりも増えており、全体を通して体力の低下がみられた。 ○　来年度は体育の授業を中心に体力向上の取組を図るだけでなく、家庭での取組について定期的取り組みを促す必要がある。今後、体力向上に向けた取組内容を検討していく必要がある。 ２について ○　年度当初に、避難経路や避難場所の確認をし共通理解をすることができた。 ○　いろいろなパターンの避難訓練を行うことにより、臨機応変に児童が自分で自分の命を守る意識を高めることができた。今後も、短い時間を使って避難体制をとる訓練をしていくことで、さらに効果が高まると期待される。 ３について 養護教諭や学級担任、委員会での取組でむし歯予防に努めることが出来た。しかし、むし歯治療率は前年度に比べて低く５０．０％にとどまった。今後も個別の指導を行いながら更に治療率を高めていきたい。 ○　集会で全児童に呼びかけたり、保健だよりで健康管理について家庭に啓発したりしたことにより昨年度に比べて欠席０の日が多かった。今後は、養護教諭と学級担任が連携を図り、換気や手洗い・うがいを呼びかけるなど、児童の健康に対する意識を高めていきたい。	３	３	○　中学、高校につながる基礎体力の醸成が必要と思う。 ○　避難訓練、安全点検が評価４となっていることを高く評価する。 ○　定期的な避難訓練を、安全点検を実施していることは大変いいと思う。

食育	【目標】望ましい食習慣の育成 （食は生きる源） ◎　様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる基礎を育てる。 【手段・具体的な取組】 １　伝統的な食文化や食習慣を振り返る授業の展開 ２　食育指導の充実 ３　ＨＰによる情報提供（今日の給食コーナー）	１について 地域の営農組合、JAの方、学校支援ボランティアの方の協力で、実施できた。 ○　５年生の総合的な学習の時間に米作りを実施した。天候の関係で稲刈りは実施できなかった。総合的な学習の時間で行うのであれば、児童が米作りにもっと関われる方法（例えばバケツ稲）で行ってはどうか。 ○　低学年では、生活科で芋作りを実施した。 ○　６年生は、JA主催のそばプロジェクト参加し、家庭科の授業でそば打ち体験を行った。 ２について ○　好き嫌いなく食べる児童が多く残食がほとんどなかった。日常の給食指導では学級担任を中心に食に関する指導の充実を図ってきた。 ○　養護教諭・栄養教諭と連携して全学年で食育の指導を行うことが出来た。また、給食時の放送で郷土料理の紹介をすることで地域の料理や地元の食材など関心を高めることが出来た。年間３回の「食育の日」や長期休業中の「チャレンジクッキング」を実施し、各家庭で積極的に取り組んでいただいた。 ○　地元の畜産農家の方々に来ていただき、交流給食を行うことで地産地消の良さや感謝の気持ちを育むことにつながった。 ３について ○　食に関する取り組みの様子をホームページに紹介するなど情報公開に努めた。	３	３	○　食育については、地域の協力は不可欠かと思いますので、今後も積極的な取組が必要と思う。
その他					○　２月１５日の学習発表会は感動しました。特に、２年生の手話を交えた歌はスピードも速く、練習の成果が出ていた。「手話」を永久津小学校の特技として育てたらいいと思う。

次年度の方向性についての校長所見	本年度も保護者や地域の方々から多くの御支援、御協力を得て、学校の教育目標の達成・教育ビジョンの実現に向けて諸活動を行うことができた。次年度は、本校の教育的課題の解決に向けてさらに充実した教育活動に取り組んで行きたい。特に、学力向上を図るための授業改善など具体的な取組を進めていきたい。